

With/After コロナ時代における ケアの課題と 新たな取り組み

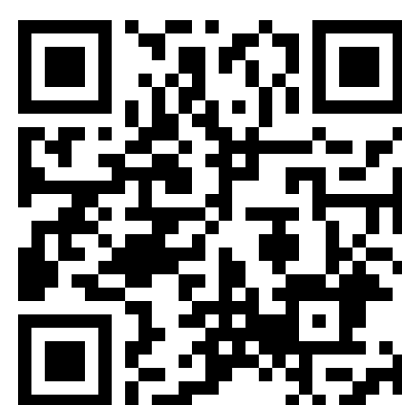
— 子育てをしながら働き，働きながら暮らす
ための地域共生社会

プログラム

- 13：30 挨拶
- 13：40 第1回公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の概要
＊西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）
- 13：50 助産学・当事者から見たコロナ禍の妊娠、出産、育児
＊新福 洋子（日本学術会議第二部連携会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）
- 14：10 コロナ禍にみる「暮らしのうつわ」としての住まい
＊山田 あすか（日本学術会議第三部連携会員、東京電機大学未来科学部建築学科教授）
- 14：30 コロナ禍後の働き方と家事分担の変化と生活満足
＊永瀬 伸子（日本学術会議第一部連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）
- 15：10 総合討論
＊近藤 康久（日本学術会議連携会員、若手アカデミー地域活性化分科会・幹事、総合地球環境学
研究所准教授）
- 16：00 閉会

日 時：令和3年12月11日（土）
13：30～16：00

場 所：オンライン (Zoom)
オンデマンド (YouTube)
※詳細は申し込み後に連絡します



お申し込み
はこちら

開催主旨

少子高齢人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。また、地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界が見られている。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な機能崩壊が現実の課題として突き付けられている。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつであろう。

我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野および問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味する。その中で科学者の地域貢献に関する役割を可視化する。この取り組みによって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現をめざす。

本シンポジウムは、コロナ禍において脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究および課題への具体的な取り組みをシリーズで紹介し、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズ企画の第2弾では、新型コロナウイルス感染症の拡大抑制下における妊娠・出産・育児、暮らしと住まい、働き方の変化に焦点を当てた話題提供を行う。具体的には①助産師及び当事者の立場からみた妊娠、出産、育児期にある女性と家族への支援、およびその形の変化 ②建築の専門家が再考する、暮らしはイエに完結せず、ケアとも分かちがたいという視点からみた住まい ③労働経済学の視点から検討する、在宅勤務等の増加と子どものいる世帯員の幸福度について報告する。また、若手アカデミー地域活性化のための社会連携分科会メンバーが総合討論に参加し、若手科学者の課題意識と分科会における取り組みを踏まえ討論を深める。

多くの参加者の皆様と課題を共有し、より現実的な提案となるよう議論したい。

日本学術会議市民公開シンポジウム

口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を 喫煙防止・禁煙支援などの喫煙対策 の場として活用すべきである

日時：2021年12月12日（日）14:20～17:00

場所：名古屋国際会議場 名古屋市熱田区熱田西町1-1

（第25回日本顎顔面インプラント学会学術大会併催）

※学術大会ホームページよりオンラインでも視聴いただけます。

参加料
無料

14:20～14:30 開会の挨拶

秋葉澄伯（日本学術会議連携会員）

14:30～15:00 セッション1

座長：中村正和（公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

講演：喫煙防止・禁煙指導における歯科と医科の連携 ― 日本学術会議からの提言案の紹介

演者：村上伸也（大阪大学大学院歯学研究科教授）

15:00～15:30 セッション2

座長：山下喜久（九州大学大学院歯学研究院教授）

講演：口腔9学会の多施設禁煙介入研究（日本歯科医学会プロジェクト研究＋科研費基盤研究）の成果

演者：長尾 徹（愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座主任教授）

15:30～16:00 セッション3

座長：福田仁一（学校法人平松学園大分歯科専門学校校長）

講演：歯科外来における禁煙支援の役割

演者：稲垣幸司（愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科教授）

16:00～16:30 セッション4

座長：瀬戸院一（総合南東北病院口腔がん治療センター長）

講演：研究成果を制度につなげる ― 学術団体としての役割

演者：中村正和（公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

16:30～16:50 全体討論

座長：山下喜久（九州大学大学院歯学研究院教授）

福田仁一（学校法人平松学園大分歯科専門学校校長）

指定発言：埴岡 隆（福岡歯科大学口腔歯学部教授）

16:50～17:00 閉会の挨拶

瀬戸院一（総合南東北病院口腔がん治療センター長）

事前登録なし

（お問い合わせ：日本コンベンションサービスセンタ株式会社 中部支社内

TEL:052-218-5822, E-mail:jami25@convention.co.jp

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会

共催：日本顎顔面インプラント学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

後援：日本生命科学アカデミー、口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会、
公益財団法人国際医療財団

ELSIを踏まえた自動運転の社会実装

ー自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザインー

日時: 2021年12月13 日(月)13:00-17:30

場所: オンラインによる開催



●お申込み: 日本学術会議ウェブサイト

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.html>

参加無料

●お問合せ先: 日本学術会議事務局 企画課学術フォーラム担当、電話: 03-3403-6295

ELSIとは技術イノベーションによって生じる倫理的・法的・社会的な課題を指します。このようなELSI研究は、ヒトゲノム研究のような人間と社会に大きな影響を与える技術イノベーションが生まれた中で登場しました。一方、人工知能などの、生命科学分野以外においても、人間・社会に大きな影響を与える技術イノベーションは生まれてきており、自動車の自動運転技術も、その中の1つと言えます。予防安全技術として進化してきた自動車の自動運転技術は、安全運転を支援するものとして開発されてきました。さらに、技術開発は進み、運転者がいなくても走行が可能なレベル4の自動運転の実現が現実的になってきています。自動運転技術が導入されても事故を完全に排除することが困難と言われる道路交通において、事故時に責任を負う人間主体が不在になることに對しては、十分に倫理的検討がなされ、社会に受容されることが必要です。日本学術会議では、多分野の研究者により、自動運転の在り方を考えてきました。自動運転の社会実装が近くなってきた今、本フォーラムでは、ELSIを踏まえた自動運転の社会実装の在り方を議論します。

総合司会 大倉典子(第三部会員、芝浦工業大学名誉教授)

13:00 開会挨拶
-13:10

菱田公一(副会長、第三部会員、明治大学知財・研究戦略機構 特任教授)

講演

13:10 ELSIおよび責任ある研究・イノベーション(RRI)について
-13:25

小林傳司
(第一部幹事、大阪大学名誉教授、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター長)

13:25 「科学技術の倫理的・法制的・社会的課題(ELSI)への
-13:55 包括的実践研究開発プログラム」の紹介

唐沢かおり(連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

13:55 茨城県境町におけるNAVYA ARMAを活用したまちづくりについて
-14:25

橋本正裕(境町町長)

14:25 休憩

14:35 自動運転の社会実装の際に議論すべき法的課題
-15:05

今井猛嘉(法政大学法科大学院教授)

15:05 自動運転バスの実証実験とELSIを踏まえた社会実装への取り組み
-15:35

中野公彦(特任連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

15:35 「クルマ」と「自動化するクルマ」の社会的受容を考える
-16:05 ー高度経済成長期のNHKテレビ番組よりー

谷口綾子(筑波大学教授)

16:05 休憩

パネルディスカッション

16:15 自動運転と未来のモビリティ社会
-17:25

モデレータ: 中野公彦(前掲)
パネリスト(予定): 遠藤薫(連携会員、学習院大学 法学部 教授)
鎌田実(連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長)
佐治友基(BOLDLY株式会社代表取締役社長 兼 CEO)
橋本正裕(前掲)
今井猛嘉(前掲)
谷口綾子(前掲)

17:25 閉会挨拶
-17:30

永井正夫
(連携会員、東京農工大学名誉教授、自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会委員長)

主催: 日本学術会議

企画: 課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」

後援: 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、文部科学省

協賛(予定):

ITS Japan、応用哲学会、科学基礎論学会、社会情報学会、計測自動制御学会、研究・イノベーション学会、サービス学会、システム情報制御学会、自動車技術会、情報処理学会、人工知能学会、電気学会、電子情報通信学会、日本科学哲学会、日本機械学会、日本感性工学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本社会心理学会、日本心理学会、船舶海洋工学会、日本人間工学会、日本ロボット学会、ヒューマンインタフェース学会



科学的知見の創出に資する可視化 (7): 人間を識り活かす総合知をもたらす「視考」



日時

令和3年 12月13日 (月) 13:00 ~ 17:50

会場

オンライン開催 (Zoom+YouTube) 配信拠点: 立命館大学アート・リサーチセンター
(〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1)

申し込み方法

Google フォームからのお申し込み: <https://qr.paps.jp/6EaGt>
YouTubeによる当日配信 (Studio ARC): <https://bit.ly/3nIUR0k>



申込みフォーム

※YouTube のご視聴のみご希望の方は参加登録は不要です

主催

日本学術会議 総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会

立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省国際共同利用・共同研究拠点

共催

「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」,
可視化情報学会, 日本シミュレーション学会, 画像電子学会, 芸術科学会, 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS),
情報処理学会 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会, 人文科学とコンピュータ研究会,
お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター

多層型 デジタル視考学

プログラム

- 13:00 開会挨拶 小山田 耕二 (総合工学委員長, 日本学術会議会員, 京都大学教授)
~13:10 来賓挨拶 松尾 泰樹 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局事務局長)
- 13:10 趣旨説明 「多層型デジタル視考学: 人間を識り活かす総合知をもたらす可視化」
~13:20 田中 覚 (日本学術会議連携会員, 立命館大学教授)
- 13:20 講演 (1) 「可視化の新パラダイム策定」
~14:05 藤代 一成 (日本学術会議連携会員, 慶應義塾大学教授)
- 14:10 講演 (2) 「ICT 時代の文理融合研究を創出する可視化」
~14:55 田中 覚 (日本学術会議連携会員, 立命館大学教授)
- 15:00 講演 (3) 「社会に貢献するジャーナリズムとしての可視化」
~15:45 伊藤 貴之 (日本学術会議連携会員, お茶の水女子大学教授)
- 15:50 講演 (4) 「細胞・身・心のマルチスコピック可視化新パラダイム」
~16:35 跡見 順子 (日本学術会議特任連携会員, 東京農工大学客員教授・東京大学名誉教授)
- 16:45 総合討論 「人間を識り活かす総合知をもたらす可視化を目指して」
~17:45 モデレータ 竹島 由里子 (東京工科大学教授), 清水 美穂 (東京農工大学客員准教授)
パネリスト シンポジウム講演者, 小山田 耕二, 萩原 一郎
- 17:45 閉会挨拶 萩原 一郎 (日本学術会議連携会員, 明治大学研究特別教授・東京工業大学名誉教授)

お問い合わせ先

立命館大学情報理工学部 田中覚 ([stanaka\[at\]is.ritsumei.ac.jp](mailto:stanaka[at]is.ritsumei.ac.jp))

※ [at] は @ に置き換えて下さい

お米で 糖尿病予防!?



2021年**12月18日**(土)

11:00~12:00 オンライン

講師 熊谷 日登美

日本大学 生物資源科学部 教授

日本学術会議会員 農芸化学分科会委員長

司会 若林 素子

日本大学 生物資源科学部 教授



申込フォーム (締切: 12月15日)

<https://forms.gle/LhMCaLqpkhdg51Xt9>



主催 日本農芸化学会

日本学術会議 農芸化学分科会

講演概要

米はデンプンが主成分ですので、
ご飯を食べれば、血糖値が上昇します。

けれども、**米の中に含まれるアルブミン**という
水溶性のタンパク質は、**血糖値の上昇を抑える
働き**を持っています。

そして、小麦や蕎麦のアルブミンとは異なる
ユニークなダブル効果で、デンプンだけでなく、
**ぶどう糖を摂取した場合にも、血糖値の上昇を
抑制**します。

さらに、この米アルブミンは、幅広いpHで
高い泡立ち性や乳化性を示し、また、**熱耐性**
にも優れています。

このような食品の加工時に有用な特性と、
糖尿病の予防効果を持つ、ユニークな機能性
タンパク質を見つけた経緯から、その機能の
詳細、作用メカニズムなどについて、
ご紹介します。



Future Earth

持続可能な社会の創り手を育てる学び

ー 海の学び、ESD/SDGs の学びを豊かに ー

2021.12.19 ^{SUN}

13:00~16:00 参加費無料

Zoomによるオンライン会議

参加申込：中学生以上ならどなたでも参加できます。

①名前、②所属、③メールアドレスを明記し、12月17日までに
resilience.nagoya@gmail.com（名古屋大学 鈴木康弘）に
お申し込みください。

持続可能な世界を目指すフューチャー・アース、SDGs(国連持続可能な開発目標)、ESD(持続可能な発展のための教育)などの活動が活発化していますが、それらの推進には学術と社会、それに教育、特に学校教育との連携が重要です。カリキュラムマネジメントと評価、地域学習の実践、学校と地域の連携などの議論も深める必要があります。これらについて研究者、現場教員、科学コミュニケーター等からの報告を参考に、参加者みんなで多角的に考えましょう。

[総合司会] 鈴木康弘 日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授

13:00~13:10 ●開会挨拶・趣旨説明

氷見山幸夫(日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授)

I部 海の学び

13:10~13:30 ●報告1「with コロナ時代のカリキュラムの一考察～海と学習者を結ぶ～」

日置 光久(日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授)

13:30~13:50 ●報告2「海と学習者を結ぶオンライン学習の実践」

小澤 鷹弥(ふなばし三番瀬環境学習館 科学コミュニケーター)

13:50~14:10 ●報告3「『生きる力』を育成する水害防災教育プログラムの実践」

川真田 早苗(北陸学院大学子ども教育学科教授)

II部 ESD/SDGsの学び

14:10~14:30 ●報告4「地域全体の持続可能な社会の創り手の学び～大牟田市の実践～」

安田 昌則(前大牟田市教育委員会教育長)

14:30~14:50 ●報告5「ホールのスクールの ESD カリキュラムと評価方法～大仙市の実践～」

島田 智(秋田県大仙市立大曲南中学校校長)

14:50~15:10 ●報告6「学校と地域社会の連携による地域づくりの実践～飯田市の実践～」

小玉 敏也(麻布大生命・環境科学部教授)

15:10~15:15 休憩

ディスカッション

司会：山口 しのぶ(日本学術会議連携会員、東京工業大学環境・社会理工学院教授)

コメンテーター：谷口 真人(日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長)

丹羽 淑博(日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任准教授)

15:55~16:00 ●閉会挨拶

春日 文子(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)

連続公開シンポジウム

第二回

生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ —大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み—

総合司会 熊谷 日登美 (日本学術会議第二部会員・日本大学生物資源科学部教授)

14:00～14:05 主催者挨拶

望月 真弓 (日本学術会議副会長・慶應義塾大学名誉教授)

14:05～14:15 主賓挨拶

千原 由幸 (文部科学省科学技術・学術政策局長)

山田 雅彦 (厚生労働省雇用環境・均等局長)

14:15～14:20 趣旨説明

名越 澄子 (日本学術会議第二部会員・埼玉医科大学総合医療センター教授)

14:20～17:20 シンポジウム

14:20～14:50

「名古屋大学における男女共同参画推進の取り組み —名古屋大学での好事例—」

松尾 清一 (東海国立大学機構名古屋大学総長)

座長 小松 浩子 (日本学術会議第二部会員・日本赤十字九州国際看護大学学長)

14:50～15:20

「私立総合大学におけるダイバーシティ&インクルージョン ～立命館大学の取組み～」

仲谷 善雄 (立命館大学学長)

座長 竹中 麻子 (日本学術会議連携会員・明治大学農学部農芸化学科教授)

15:20～15:50

「イノベーションの源泉となるダイバーシティ&インクルージョンの取り組み」

梶原 ゆみ子 (富士通株式会社執行役員常務CSO (兼) サステナビリティ推進本部長)

座長 熊谷 晋一郎 (日本学術会議連携会員・東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野准教授)

15:50～16:20

「キリングループの多様性推進の取り組み」

神崎 夕紀 (協和発酵バイオ株式会社常務執行役員経営企画部長)

座長 吉永 直子 (日本学術会議連携会員・京都大学大学院農学研究科助教)

16:20～16:50

「学協会におけるジェンダー・ギャップと女性研究者活躍推進に向けた取り組み」

裏出 令子 (京都大学複合原子力科学研究所特任教授)

座長 村山 美穂 (日本学術会議第二部会員・京都大学野生動物研究センター教授)

16:50～17:20

「東北大学におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進」

大野 英男 (日本学術会議連携会員・東北大学総長)

座長 三谷 絹子 (日本学術会議第二部会員・獨協医科大学内科学教授)

17:30～18:00 パネルディスカッション

司会 名越 澄子 パネリスト 講演者6名

閉会挨拶 熊谷 日登美

後援 (予定) :

文部科学省、厚生労働省、内閣府男女共同参画局、国立研究開発法人科学技術振興機構

公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本看護系学会協議会

一般社団法人日本医学会連合、一般社団法人日本歯科医学会連合

一般社団法人日本農学会、生活科学系コンソーシアム

生物科学学会連合、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー

男女共同参画学協会連絡会、全国ダイバーシティネットワーク



参加費無料

事前参加申込期限: 12月17日

どなたでも参加できます。

<https://forms.gle/DynjTzVLJBGqzUjb9>



第80回 日本公衆衛生学会総会プログラム

日本学術会議—日本公衆衛生学会 合同市民公開シンポジウム

プラスチックの ガバナンス

感染症制御のための
衛生環境管理と資源循環

2021.12.23(木) 14:50–16:20

東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

(東京都文京区本郷7-3-1)

プログラム

開会の挨拶

那須民江 日本学術会議連携会員／名古屋大学名誉教授／中部大学客員教授

座長

中村桂子 日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学教授

大塚直 日本学術会議第一部会員／早稲田大学法学部教授

講演

1 「新興感染症パンデミック時の保健医療と環境衛生管理のかかわりと今後の課題」

浅見真理 日本学術会議第三部会員／環境学委員会委員長／
国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

2 「感染症パンデミック制御とプラスチック資源循環のガバナンス」

石川雅紀 叡啓大学特任教授／神戸大学名誉教授

3 「廃棄物処理におけるプラスチックごみの取り扱いについて」

山田正人 国立環境研究所 資源循環領域 廃棄物処理処分技術研究室室長

4 「海洋プラスチック・マイクロプラスチックの減量化に対する環境省の取り組みについて」

中島慶次 環境省 水・大気環境局 水環境課 海洋プラスチック汚染対策室室長

5 「大気中マイクロプラスチックの実態解明と健康影響」

大河内博 早稲田大学理工学術院創造理工学部教授

閉会の挨拶

石塚真由美 日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院獣医学研究院教授

主催 日本学術会議 環境学委員会・健康・生活科学委員会合同 環境リスク分科会
同 健康・生活科学委員会・基礎医学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会

入場無料

どなたでも
参加いただけます

日本学術会議環境リスク分科会は2020年4月7日に、提言「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性和プラスチックのガバナンス」を提出しました。

提言提出は新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴う最初の緊急事態宣言が出た時期と重なりました。感染症パンデミックの制御とプラスチックのガバナンスについて、衛生環境管理と資源循環の観点から多角的に討論します。

お問い合わせ

中村桂子 (東京医科歯科大学)
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
TEL: 03-5803-4032
E-mail: whocc.ith@tmd.ac.jp

日本学術会議ホームページ
www.scj.go.jp

共催 日本公衆衛生学会
後援 日本生命科学アカデミー



乳酸菌が作る抗菌物質・バクテリオシン

～食べるだけではもったいない乳酸菌の力～

乳酸菌と聞いて、まず思い浮かぶのはヨーグルトや漬け物でしょうか？

乳酸菌は、種々の発酵食品を通じて、私たちの健康にいい効果をもたらします。最近では発酵食品以外にも乳酸菌入りと表示された食品を多く見かけます。多種多様な微生物の中でも、乳酸菌は私たちに最もやさしい有益な微生物と言えます。

そんな乳酸菌には、私たちの健康を支えてくれる他にも多くの働きがあります。その一つが有害な微生物の増殖を抑える働き、抗菌作用です。抗菌作用には、乳酸菌が作るバクテリオシンという物質が関わります。バクテリオシンは、安全な抗菌物質として、食品の保存から飲み込める歯磨き粉まで、広く利用され始めています。乳酸菌が作るバクテリオシンの働きや利用例を紹介するとともに、乳酸菌とバクテリオシンの可能性について考えてみたいと思います。



講師：善藤 威史 (ぜんどう たけし) さん

九州大学大学院 農学研究院 准教授

挨拶：本城 賢一 (同 准教授・日本農芸化学会 広報委員)

丸山 明子 (同 准教授・日本学術会議農芸化学分科会委員)

日時：2021年12月25日 (土) 13:00-14:30

会場：福岡市科学館 4階交流室①

参加申込み：福岡市科学館

12月4日(土)12:00～22日(水)18:00に [こちら](#) からお願いします

参加費：無料

定員：20名 (事前申込み制・先着順)

***新型コロナ対策へのご協力
をお願いします**

お問い合わせ：本城 賢一 (honjoh@agr.kyushu-u.ac.jp)

主催：日本農芸化学会

共催：日本学術会議 農芸化学分科会

協力：福岡市科学館



SDGsに向けた 大学の取り組み

SDGs (持続可能な開発目標) は2015年に国連総会が決議した「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた目標です。この目標の達成に向けて行政や企業、市民社会の活動が活発化しています。大学においてもSDGs目標達成に向けての取り組みが行われてきています。しかし、日本学術会議の報告「学術とSDGsのネクストステップー社会とともに考えるためにー」で指摘しているように、その活動をSDGsの17の目標に「紐付け」るレベルで留まっている現状があります。2030年の目標達成に向けて大学にはさらに進んだ取り組みが求められています。ここでは、さらに進んだ取り組みの事例とさらに進めるためのヒントをご紹介します。

令和3年

12/25^土

13:00▶16:30

参加費無料

PROGRAM

13:00
13:10

開会挨拶

名古屋大学総長 松尾 清一

13:10
13:20

主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

13:20
13:30

科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久

13:30
16:25

学術講演会

SDGsの達成に向けて大学は何ができるか

日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授 高村ゆかり

そもそも「維持可能な」開発目標とは何なのか？

日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授 齊藤 誠

大学の活性化戦略としての男女共同参画の推進

日本学術会議連携会員、名古屋大学副総長・大学院生命農学研究科教授 東村 博子

16:25

閉会挨拶

司会

日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 野口 晃弘
(日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授)

名古屋大学

名古屋市千種区不老町1

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 名古屋大学



オンライン開催

【参加申込方法】

参加を希望される方は12/20(月)までに下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。



参加申込
URL

<https://forms.gle/CaAQe9yqR7dudDHN6>

問い合わせ先

日本学術会議中部地区会議事務局
(名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041
<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>